

あかまつ

札幌市立東白石中学校
学校だより 第14号

令和2年(2020年)3月25日発行
校長 木村 嘉宏

<https://www16.sapporo-c.ed.jp/higashishiroishi-j/>

令和元年度 自己評価書及び学校関係者評価について

学校関係者評価は、教育活動の成果と課題、そして改善の方策について学校関係者評価委員の目から学校の諸活動を評価していただくものです。保護者、地域の方々のアンケートを基に、御意見をいただきながら、今年度の評価をいたしました。これからも、地域に開かれた学校づくりに向けて教育の質の保証と向上、学校運営の改善に取り組んでいきます。

1 本年度の重点目標

「～子どもたちを育む協働のハーモニーを～」

- 1 安心して学べる「学び舎」の環境強化
- 2 学ぶ側に立った、分かる・できる・楽しい「授業づくり」の充実
- 3 不登校生徒への対応、いじめ防止、命を大切にしている指導等の取組の強化
- 4 自治活動の充実と強化(目指す生徒像に向けて)
- 5 その他

2 本年度の経営方針

- 1 札幌らしい特色ある学校教育の推進
- 2 学ぶ力の育成【知】
- 3 豊かな心の育成【徳】
- 4 健やかな身体の育成【体】
- 5 子どもの発達への支援
- 6 信頼される学校の創造
- 7 教科の枠組みを超えた教育

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

[自己評価結果(達成状況) A:十分である B:概ね十分である C:不十分である D:改善を要する]

[学校関係者評価結果(適切さ) A:十分に適切 B:ほぼ適切 C:やや適切 D:不適切]

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
重点目標・方針	重点目標や経営方針が明確になっている。	A	重点目標、方針の明示を次年度も継続し、学びと成長を実感できる学校教育を進めていく。次年度においても「特別な教科 道徳」を重点目標や経営方針にしっかりとつなげ、更に深めていく。	A	A
	重点目標や経営方針をわかりやすく、保護者・地域に伝えている。	A	学校だよりや学校HPへの掲載、公開授業や各学年PTA等での説明の場の設定など発信する機会を充実させ、今後とも目指す生徒・学校の姿を日常から積極的に発信していく。	A	A
	重点目標や経営方針に沿った適切な教育課程が編制されている。	A	目標・方針に沿った教育活動をより積極的に推進するため、授業の充実を図り、行事活動を効果的に活用する。また、生徒自身がよりよい社会づくりの意識を更に高め、継続可能な教育課程の編成を行う。	A	A
学校関係者評価委員による意見	落ち着いたある良い学校だと思ふ。学校教育目標や教育方針についても、PTAや地域の諸会議、学校便り等を通して学校長から発信されている。				
学習指導	生徒の資質や能力、興味関心に合わせて学ぶ意欲の向上に努めている。	B	確実な基礎・基本の定着を重視した教育活動の推進に努め、学ぶ意欲の向上を図る。さらに、学習習慣の定着を重視し、家庭学習の意義について継続的に指導する。	A	B
	生徒の実態に合わせて指導方法や指導形態の工夫・改善を図っている。	B	全学年全学級で「授業の受け方の約束」を掲示し、規律ある授業づくりを継続する。また、教科会等の実施により「学ぶ力」の育成プログラムを基盤に、生徒の確かな学びを支援していく体制作りを更に強化していく。	A	A

	生徒の学ぶ意欲や努力、能力を適切に評価している。	A	生徒の学習意欲を最大限に引き出すための指導の工夫を心掛け、評価に関する規準の見直しを図る。また、新学習指導要領を踏まえ、授業の実践と評価についての研修を深めていく。	A	A
学校関係者評価委員による意見	家庭における習慣づけが課題である。生徒一人一人が学習に対して前向きに取り組むには、家庭への働きかけが必要であり、小中連携・一貫教育の視点で、小学校との共同の取組が重要である。				
生徒指導・生徒活動	基本的な生活習慣の定着・向上に向けた取組が効果的に行われている。	A	落ち着いた校内環境保持を継続できるよう、生徒の自主的な生活向上の取組を展開していく。また、他者との関わりを大切にしながら日々の教育活動の実践を重視し、教師・生徒間での定着を図っていく。	A	A
	自他の生命を大切に作る指導、思いやりの心を育む指導が計画的に行われている。	B	生徒の実態を踏まえた組織的な支援の在り方や校内学びの支援委員会を拠点とした生徒理解推進のための取組を行う。また、新たに講師を招いて実施した「人権教室」の開催など、個々の生徒に優しさや自律が育つ指導を今後とも計画的に継続していく。	A	A
	生徒の問題や悩みの早期発見と適切な相談、支援が行われている。	A	日々の生徒観察の情報共有を図りながら、未然防止に努めていく。教育相談アンケートの結果を組織的に検討、改善し、機動的に生徒の指導に生かしていく。	A	A
	行事や日常の活動を通して自主的・自発的な姿勢を伸ばさせている。	A	一社会人としての成長を図る上で、学校行事は有効的であると踏まえ、生徒一人一人に達成感、成就感、自己有用感を高められるよう、工夫した取組を行っていく。	A	A
学校関係者評価委員による意見	部活動に関して、柔道部や合唱部をはじめとして、多くの成果が見られるが、厳しさの中にも優しさのある指導が大切である。また、部活動によって引退の時期に差があるようだが、3年生の受験を考えると、検討する必要があるのではないか。				
公開と連携	保護者や地域に積極的に学校の取組を公開したり、情報発信をしている。	A	学校だより、HPを軸に学校の取組を発信している。今後も本校の実態を地域や保護者などへの公開や発信の機会を増やし、地域に根差す学校づくりに努める。	A	A
	行事や日常の活動を通して自主的・自発的な姿勢を伸ばさせている。	A	小中一貫教育を念頭に置き、本校区内小学校との合同研修会を実施した。また、充実した連携により、組織的、機能的な実践を更に定着させていく。	A	A
学校関係者評価委員による意見	「小中連携教育」から「小中一貫教育」に変わり、教職員は取り組んでいる。夏季休業中に部活動の見学が新設されたように、生徒、保護者により明確に伝わるように工夫はできないか。				
施設の活用	校舎の施設・設備を教育活動の様々な場面で有効に活用している。	A	多目的室や教育相談室等の有効活用の他、1階ホールにて合唱部の地域コンサートなどを実施している。災害時の避難所としての役割もあるため、地域、関係機関との連携を一層重視していく。	A	A
	ICTや教育機器を教育活動の様々な場面で有効に活用している。	A	タブレットの導入により、授業等で有効的に活用されはじめた。教職員の研修等の実施により、更に生徒の学習意欲を喚起する。	A	A
学校関係者評価委員による意見	学校という教育施設でありながらも、地域にも開かれた施設利用がなされている。				

【評価書の見方】

この評価書は、次の2つの評価が組み合わされた表になっています。

- ① 自己評価～本校教職員が、自分たちの取組を達成状況で表し、改善の方策を打ち出したもの
- ② 学校関係者評価～学校関係者評価委員が、その自己評価が適切であるかどうかを評価したものですから、学校関係者評価の結果がAである場合、学校が評価した結果や改善策が十分適切であることを意味し、学校関係者がその項目自体を評価したわけではありません。

<学校連絡先>

住所 〒003-0023 札幌市白石区南郷通15丁目北4-1 TEL 864-0984

HP <https://www16.sapporo-c.ed.jp/higashishiroishi-j/> ※学校HPでも生徒の様子を随時更新しています。ぜひ御覧ください。